

RECORDS

●平成17年度第1回男女共同参画推進委員会議事録

日 時：平成17年5月19日 18：30～20：45

場 所：仙台国際センター会議室

出席者：小田一望月紀子，金子章道，彼末一之，高松 研，下山恵美，菅原美子，鈴木裕一，水村和枝，
宮坂京子，宮崎俊一，持田澄子

報告

1. 男女共同参画学協会連絡会の活動状況について持田委員より報告があった。
2. 生理学会仙台大会における委員会企画シンポジウムの準備状況について水村委員長より報告があった。
3. アドバイザー制が開始され，1名の利用者があったこと，3名の委員が回答したことが小田一望月委員より報告された。
4. 生理学会仙台大会保育室の設置状況，申し込み数等について水村委員長より報告があった。
5. 3月26日に和光市理化学研究所で開催されたシンポジウム「科学・技術分野で女性研究者が活躍するための4つの条件」—男女共同参画の実現に向けて—において，水村が生理学会における女性研究者のネットワークづくりについて，男女共同参画推進委員会の活動を含めて発表したことが水村委員長より報告された。

議事

1. 任期制と人材育成をめぐる最近の動向について
菅原委員より準備した資料（科学・技術学術審議会：第三次科学技術基本計画の中間まとめ，文科省：第三次科学技術基本計画の重要政策，内閣府：男女共同参画社会の形成に関する施策の基本的な方向についての中間整理，科学新聞2005. 5. 13：厳しい日本のポストドク環境）にもとづいて説明があった。その後各大学，研究所の現状の紹介があり，さらには次のような点について種々討論が行われた。
I) 複数のキャリアパスの可能性，そこへの道筋をどうするか（教員免許など）
II) ポストドク1万人計画の後のフォローアップ

III) 採用，再任における評価の問題

2. 群馬大会における企画シンポジウムの内容について
1) における討論を元に討論した。その結果次の2点を柱に水村を中心にワーキンググループで準備を進めることとなった。
I) ポストドク，大学教員の任期制の様々な側面—特に女性研究者の育成における問題点にもふれる。
II) ポストドク1万人計画の後のフロー，政策はどうなっているか—政策の紹介と複数のキャリアパスの可能性の提起
3. アドバイザー制の運用について
小田委員より1) アドバイスを依頼するときアドバイザー候補者に相談者の氏名を明らかにすべきか，2) アドバイザーの氏名を相談者に明らかにすべきか，という点について問題提起があった。1) については打診の段階では相談者氏名は明らかにしない，実際にアドバイスを引き受けた時点で明らかにする。2) については，元々アドバイザーを指名できるようになっているので，アドバイザー氏名は明らかにする，という方針で行くことになった。
4. 内閣府より問い合わせがあった平成17年度チャレンジキャンペーン～女子学生・生徒の理工系分野への選択～への協力について
「なぜ女子だけなのか」，「理工系の中に医系は入らないかもしれないが，医学部には医師だけでなく，研究者への道があることを知らせるために意義があるかもしれない」などのメール討論を元に討論し，あまり多くの活動を要しない協力団体になることで合意された。

(水村和枝)